明るい生活

少年補導センター

迷える小羊たちに愛の手を

市民ぐるみで育てよう

青少年の不良化や犯罪は日増しに増え、とくに近ごろでは次第に低年層の少年の非行が、全国的にめだつてきています。

一日も早く、この補導日誌や、非行少年分布図のいらなくなるように願つています。

出題者　留萌市五十嵐町
森田寿保子さん　主婦　33才

最近、留萌市に「少年補導センター」が設けられたと聞きましたが、どのような目的で作られたのでしょうか。

こうしたなかで、留萌市の場合もその例にもれず、凶漁地帯、人の出入りが激しいという特殊事情もあつて、全道的にみても、少なくありません。

このため、非行をなくし少年を悪への道にまよわせないようにと、各地とも頭を痛めていますが、留萌市の防犯協会などが中心となつて、いままでのように警察だけにまかせておくのではなく、市民のみんなの暖かい力で、少年たちを守ろうと、作られたものです。

市からは公民館をきれいに改造して場所が提供されまちの人たちからは、いすや時計、ラジオなどの設備が寄せられ、ことしの十月一日、新たらしい希望に満ちたスタートをしたのでした。

補導センターでは、家庭の相談を待つています。

〝少年の健全な育成をし非行のある少年に対しては性格の矯正や環境の整備をはかる〟という少年法の目的にあわせ、留萌少年補導センターでは、「少年の特性を充分理解し、つねに愛育の精神で、その少年の幸福のために、最良の道を選ばせたい」と、毎日熱心な補導が続けられています。

補導員の人たちは、民生児童委員、警察署員、教員のほか一般市民を含めた七十一名ホ―ほとんど無給で毎日交代で、街頭補導、少年相談、事後補導、心理検査などを行つています。

毎日午前九時から午後五時まで　雨の日も、風の日も補導員の人たちは、街の中をまわつている。

映画館、旅館、料理店、ダンスホール、公園など、家庭の人や、教員の眼の届かないところをまわり、悪いことをしていたり、悪の道へ一歩手前の少年たちを、愛の手で守る大事な仕事がまつているのです。

すべて警察署や家庭と連絡も忘れられないことの一つ。

しかし、こうした少年たちを悪への道に走らせる原因に、家庭の無理解があげられる。

道所長も、もつと家庭の中で、少年たちのことに気をつけ、暖かい家庭の環境をつくりあげて欲しい。

こうしたことから、相談を積極的にして、補導センターを、もつと利用して下さいと呼びかけている。

補導センターのつくられた目的からいえば　この少年相談に一番大きな期待をかけているのも、うなづけることです。

非行少年の善導ほど、むずかしいことはない。

街頭補導や相談だけでは完全な仕事が行われたとはいえない、このような少年たちの心は敏感で、不安定だからです。ちよつとしたことでも、また悪の道へ走りかねない。

そこで家庭から依頼があつたり、運営委員会（会長橋本作市）が必要だと思つた少年たちには、一人一人に担当員を決め、いつでも少年の父であり、母として、親身の相談相手となつて力づけ、明るく健全な少年に育てようとしています。

しかし、このような補導も愛情だけでは不可能だ。科学的なものも必要なのは当然であるが、この補導センターでは、少年の心理検査で、少年の心を科学的、心理的に読みとろうとしている。

その方法は、五枚一組の図版と、項目法による少年の暗示を記号などによつて分析して、非行の危険度あいをはかるものです。

その結果は、事後補導が必要になつたときの、補導期間をどの位にすればよいか、補導の方法はどうするかなどを決めるのに大きな役割りをはたしているわけです。

あわただしい年末をひかえ、また犯罪の多くなる時期です。少年のあやまちが多いのもこの時期です。

補導センターでは、このため特別補導を行おうと計画しています。

補導センターでは、いつも家庭と補導センターが一つになつて、一日も早く悪への道に踏みはずす少年が一人でもなくなるよう、家庭、そして市民の協力を望んでいます。

補導員は無給でも、毎日熱心な補導が続けられています。

煙筒の不良が多い

火事のない明るい年末を

火災の多くなる冬を前に市消防署（団）では、市内の火防検査を行ないましたが、この検査で百十六戸の家庭が、設備をなおすように注意されました。

火防検査は、五千五百二十二戸について行なわれ、このうち注意されたのは、百十六戸（二百二十八カ所）で、全体の約二％にあたります

注意されたのは

外部煙突の不良	四九
目鏡石なし	二四
可燃物の接近	一二
浴室の不良	一一
内部煙突不良	九

となつています。

いよいよ冬将軍を迎えるこの時期（十二月から二月まで）は、年間火災の三分の一も発生しています。設備の悪るいところは一日も早く改善して、「火災都市」留萌の汚名を挽回するよう、火の用心をし、明るい年末年始を迎えて下さい。

あなたの本を圖書館へ

市立図書館　献本を望んでいます

市立図書館では、市民のみなさまからの図書の寄贈を呼びかけています。

現在市立図書館の蔵書数は、約一一、二〇〇冊で、年々増加する図書館利用者とは反対に、蔵書数は基準冊数よりはるかに少く、限られた購入予算ではとうていい利用者に満足していただけないので、市民の暖い御理解を得まして、充実した図書館にいたしたいと思つておりますので、特志の方々によろしくお願いいたします。

なお献本は、一冊でも二冊でも結構です。電話でも御通知いただけましたら直ちに係の者がおうかがいしますからよろしくお願いします。

あなたの寫眞でした

〝あなたに写真を、〟と広報にのつた写真を、さしあげることにしていましたが、次のかたから申し出がありましたので、直接窓口で手渡し、あるいは郵送いたしました。

■十月号〝秋風にそよぐ赤い羽根〟

神奈川県川崎市久地五六
佐藤弘子さん。

佐藤さんは、たまたま実家のある留萌市に来ていたとき、市長から羽根をつけてもらつたものです

■十一月号〝ソレッ、ことしも豊作だ〟

市内峠下町字美沢
高田敬次郎さん

市内幌糠町
川端喜久雄さん

おしらせ！

ろう児の入学は道立旭川ろう学校へ

ろう（聾）児をお持ちのご家庭に、道立旭川聾学校に入学するよう、市教委では望んでいます。

満六才になつた子供は、必らず学校教育を受けなければなりませんが、こうしたご家庭では、ろう学校に入学させるのが一番よい方法です。

旭川聾学校は、寮、教育設備が完備し、授業料や入学金もいらないほか、特別の就学奨励金が受けられます。

なお、くわしいことは留萌市教育委員会に問あわせて下さい。

明年の成人となる人を調べます

明年あたらしく成人となる人を、近く住民登録係で調べます。

留萌市では、毎年一月十五日の「成人の日」に、あたらしく成人となつた人たちを、お祝いの成人式に招いて記念品を贈つておりますが、これらの人たちは住民登録係で調べ年賀ハガキでご案内しています。

明年は、昭和十五年四月二日から昭和十六年四月一日までに生まれた人が対象になりますので、住民登録をされていない人は、急いで市民課戸籍係ですまして下さい。

わたくしたちの市役所

経済課

臨海工業　都市の將來計画を

農漁、中小企業對策も着々と

農林係は、農地の開発と改良を行つて、よいお米やよい農産物を沢山とるための、農産のことはこの係でその他に農家の経営を合理化することによつて、農民の生活を一層よくすることも指導しております。又「山に青々と沢山の木が繁つているところは、その土地の支配者がよい政治を行つていたからだ」と中国人はいつているこの大事な、森林を守ることや、伐り出したあとに又植えて造林する林政もこの係で、農家に牛や家畜を入れて農民の生活を豊にする酪農や馬籍をつける畜産のこともこの係でやつております。

水産係は、にしん漁業に変る魚田の開発や、いらなくなつた枠船や、コンクリートでつくつた魚のアパートを沈め豚を飼わせて少しでも漁民の生活を豊かにすることや、漁家の経営状態を調査して、漁民の生活向上にも努めております。

商工係は、商工業の実態を把握するための調査や、商店や工場の経営をよくするための、経営診断のことや、商店、工場が店舗、工場を改善したり、商品を仕入れるための資金を融通する、中小企業者の特別融資の取扱いもやつております。又新しい工場を誘致するための資料の作成や、貿易が興するための仕事も、海水浴場に休けい所や、いろいろな施設をして他の都市のお客さんを沢山よぶための観光の仕事も扱つており、いつも正しい量目で商品を売るように、各商店にある「はかり」を調べることもこの係でやつています。

このように経済課の人は、常に農民、漁民、中小工業者のため、関係団体の協力を得て直接、現地で指導に当つていることが多いのでむしろ職場は農村であり、漁村であるといつた方がよいようです。

荒れた沿岸魚田に魚を呼ぶため、沈船魚礁も行われています。